

平成 25 年 2 月 17 日 (日) 施行

## 第 170 回 全経簿記能力検定試験 1 級 会計 解説

### 第 1 問

1. 企業会計原則 第一 一般原則 六
2. 企業会計原則 第二 損益計算書原則 一 A

### 第 2 問

1. 交通費 ¥5,600 + 通信費 ¥4,900 + 消耗品費 ¥7,200 + 雑費 ¥3,800 = ¥21,500 を補給
2. 商品の際に保管料 ¥6,000 を以下のとおり処理している。

(借) 受託販売	6,000	(貸) 現金等	6,000
----------	-------	---------	-------

商品販売時に以下の処理をしている。

(借) 現金等	350,000	(貸) 受託販売	350,000
---------	---------	----------	---------

受託販売の勘定残高は貸方残 ¥344,000 である。このうち販売手数料 ¥28,000 を除いた ¥316,000 を当座預金口座から送金した。

3. 荷為替の取組みは自己受為替手形を振り出したと考える。

(借) 受取手形	532,000	(貸) 売上	760,000
売掛金	252,500	現金	24,500

割引料 ¥4,200 の手形割引の処理をする。

(借) 当座預金	527,800	(貸) 受取手形	532,000
手形売却損	4,200		

以上の仕訳をまとめる。

4. 25,000 株 × @ ¥1,000 で増資を行う。別段預金のうち割り当て分を当座預金に振り替える。

(借) 当座預金	25,000,000	(貸) 別段預金	25,000,000
----------	------------	----------	------------

払込価額の 2 分の 1 は資本金に組み入れないので

(借) 新株式申込証拠金	25,000,000	(貸) 資本金	12,500,000
		資本準備金	12,500,000

割り当てもれの申込証拠金 ¥7,000,000 は払い戻す。

(借) 新株式申込証拠金	7,000,000	(貸) 別段預金	7,000,000
--------------	-----------	----------	-----------

以上の仕訳をまとめる。

5. 社債 ¥20,000,000 × (96.40 / 100) = ¥19,280,000

5 年間で償却するので、年間償却額は ¥144,000

本日まで 3 年が経過したので、帳簿価額は ¥19,280,000 + (¥144,000 × 3 年) = ¥19,712,000

このうち額面総額 ¥10,000,000 を償還するので、償還分の帳簿価額は

$$¥19,280,000 \times \frac{¥10,000,000}{¥20,000,000} = ¥9,856,000$$

償還金額は ¥10,000,000 × (98.9 / 100) = ¥9,890,000

よって ¥9,856,000 - ¥9,890,000 = △ ¥34,000 (社債償還損)

6. 内金受領時は 1 \$ = ¥79 なので内金 (前受金) \$ 5,000 は ¥395,000

\$ 5,000 受け取っているため、残額 (売掛金) は \$ 20,000

商品発送時は 1 \$ = ¥82 なので \$ 20,000 は ¥1,640,000

### 第3問

売上高は第1回売上－売上戻り＋第2回売上

$$¥660,000 - ¥99,000 (30 \text{ 個} \times @ ¥3,300) + ¥597,600 = ¥1,158,600$$

#### ①先入先出法

第1回売上の売上原価は  $(120 \text{ 個} \times @ ¥2,400) + (80 \text{ 個} \times @ ¥2,430) = ¥482,400$

売上戻りで  $30 \text{ 個} \times @ ¥2,430 = ¥72,900$

第2回売上の売上原価は  $(180 \text{ 個} \times @ ¥2,430) = ¥437,400$

$$¥482,400 - ¥72,900 + ¥437,400 = ¥846,900$$

#### a 商品

(先入先出法)

月初棚卸高	120 個	@¥2,400	120 個	@¥2,400	
			80 個	@¥2,430	第1回売上
			△30 個	@¥2,430	売上戻り
第1回仕入	240 個	@¥2,430	180 個	@¥2,430	第2回売上
			10 個	@¥2,430	
第2回仕入	230 個	@¥2,460			月末棚卸高
仕入戻し	△20 個	@¥2,460	210 個	@¥2,460	

#### ②移動平均法

第1回仕入によって

$$\frac{120 \text{ 個} \times @ ¥2,400 + 240 \text{ 個} \times @ ¥2,430}{120 \text{ 個} + 240 \text{ 個}} = @ ¥2,420$$

第1回売上の売上原価は  $200 \text{ 個} \times @ ¥2,420 = ¥484,000$

売上戻りで  $30 \text{ 個} \times @ ¥2,420 = ¥72,600$  (この時点で a 商品は 190 個)

第2回仕入で

$$\frac{190 \text{ 個} \times @ ¥2,420 + 230 \text{ 個} \times @ ¥2,460}{190 \text{ 個} + 230 \text{ 個}} = @ ¥2,440$$

仕入戻しにより以下に再計算する

$$\frac{190 \text{ 個} \times @ ¥2,420 + 210 \text{ 個} \times @ ¥2,460}{190 \text{ 個} + 210 \text{ 個}} = @ ¥2,441$$

第2回売上の売上原価は  $(180 \text{ 個} \times @ ¥2,441) = ¥439,380$

月末棚卸高は  $220 \text{ 個} \times @ ¥2,441 = ¥537,020$

### 第4問

#### 未達事項

(1) (借) その他諸費用	120	(貸) 支店	120
(2) (借) 本店	480	(貸) その他諸資産	480
(3) (借) 本店仕入	840	(貸) 本店	840

①本店・支店勘定の相殺

支 店		本 店	
18,420	120	480	17,940
	18,300	18,300	840

(借) 本 店	18,300	(貸) 支 店	18,300
---------	--------	---------	--------

②支店売上・本店仕入の相殺

支店売上		本店仕入	
46,200	46,200	45,360	46,200
		840	

(借) 支 店 売 上	46,200	(貸) 本 店 仕 入	46,200
-------------	--------	-------------	--------

③支店残高試算表の繰越商品の金額を x とすると本店残高試算表の繰延内部利益が 1,440 千円なので、

$$x \times 0.2 / 1.2 = 1,440 \text{ 千円}$$

$$x = 8,640 \text{ 千円}$$

$$\text{期末商品棚卸高は } 3,650 \text{ 千円(本店分)} + 8,220 \text{ 千円(支店分)} = 11,870 \text{ 千円}$$

(未達分 ¥840 は「未達商品」)

④③より支店残高試算表の借方から、支店残高試算表のその他諸資産は ¥31,600

⑤および⑦

繰延内部利益の戻入

(借) 繰 延 内 部 利 益	1,440	(貸) 繰 延 内 部 利 益 戻 入	1,440
-----------------	-------	---------------------	-------

内部利益の控除

$$\text{支店の期末商品棚卸高は千円 } 8,220 + \text{千円 } 840(\text{未達分}) = 9,060 \text{ 千円}$$

支店は商品すべてを本店から仕入れており、本店は発送の際に 20%の利益を付加しているので

期末商品に含まれる内部利益は

$$9,060 \text{ 千円} \times 0.2 / 1.2 = 1,510 \text{ 千円}$$

(借) 内 部 利 益 控 除	1,510	(貸) 繰 延 内 部 利 益	1,510
-----------------	-------	-----------------	-------

⑥未達取引整理記入の繰越商品は 3,650 千円 + 8,220 千円 = 11,870 千円と未達商品 840 千円なので、

(借) 仕 入	12,880	(貸) 繰 越 利 益	12,880
(借) 繰 越 利 益	11,870	(貸) 仕 入	12,710
未 達 商 品	840		

以上より、決算整理後の合併残高試算表は以下の通りとなる。

## 決算整理後合併残高試算表

勘定科目	本店残高試算表		支店残高試算表		未達取引・整理記入		整理後残高試算表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
繰越商品	4,240		8,640		11,870	12,880	11,870	
未達商品					840		840	
その他諸資産	48,570		31,600			480	79,690	
支店	18,420					120		
						18,300		
諸負債		27,230		19,380				46,610
繰延内部利益		1,440			1,440	1,510		1,510
本店				17,940	480	840		
					18,300			
純資産		32,840						32,840
売上		31,450		60,670				92,120
支店売上		46,200			46,200			
その他諸収益		2,640		1,210				3,850
仕入	63,760				12,880	12,710	63,930	
本店仕入			45,360		840	46,200		
繰延内部利益戻入						1,440		1,440
内部利益控除					1,510		1,510	
その他諸費用	6,810		13,600		120		20,530	
	141,800	141,800	99,200	99,200	94,480	94,480	178,370	178,370

## 第5問

〔資料2〕 検討事項

## 1. 現金過不足

実際有高 479 千円－帳簿残高 ¥450 = 29 千円

(借) 現金	29	(貸) 現金過不足	29
--------	----	-----------	----

二重記帳の修正

(借) 現金過不足	46	(貸) 雑費	46
-----------	----	--------	----

仮払金の未記帳

(借) 旅費交通費	130	(貸) 仮払金	100
		現金過不足	30

現金過不足の雑益勘定への振替

(借) 現金過不足	13	(貸) 雑益	13
-----------	----	--------	----

## 2. 仮払金の処理

(1) は1で処理済 → 仮払金残高は 9,030 千円－100 千円 = 8,930 千円

(借) 退職給付引当金	760	(貸) 仮払金	8,930
仮払法人税等	2,200		
仮払消費税	5,970		

3. 仮受金の処理

(借) 仮受金	7,920	(貸) 仮受消費税	7,920
---------	-------	-----------	-------

消費税

(借) 仮受消費税	7,920	(貸) 仮払消費税	5,970
		未払消費税	1,950

4. 売上割引は営業外費用として処理しなければならないので、売上から控除した処理を修正する。

(借) 売上割引	2,730	(貸) 売上	2,730
----------	-------	--------	-------

[資料3] 決算整理事項

1. 受取手形のうち 280 千円は不渡手形である。

(借) 不渡手形	280	(貸) 受取手形	280
----------	-----	----------	-----

これを貸倒処理する。営業保証金の代用として 100 千円の A 社株式を預かっているが、これを保管有価証券から時価 120 千円の有価証券とする

(借) 預り有価証券	100	(貸) 保管有価証券	100
貸倒引当金	160	不渡手形	280
有価証券	120		

不渡手形を除く受取手形+売掛金=7,000 千円+32,400 千円=39,400 千円

39,400 千円×1.5%=591 千円

貸倒引当金は 1 より 180 千円-160 千円=20 千円

差額補充法より、貸倒引当金繰入額 591 千円-20 千円=571 千円

(借) 貸倒引当金繰入	571	(貸) 貸倒引当金	571
-------------	-----	-----------	-----

2. 売買目的有価証券の評価替え

十勝会社株式 (14 千円-13 千円) ×200 株=200 千円

留萌会社株式 (10 千円-12 千円) ×400 株=△800 千円

(借) 有価証券評価損	600	(貸) 有価証券	600
-------------	-----	----------	-----

3. 期末商品の評価

@8 千円

@10 千円

商品評価損なし	棚卸減耗費
a 商品	

750 個 760 個

商品評価損

正味売却価額>取得原価 ⇒ 商品評価損なし

棚卸減耗費

@8 千円×(760 個-750 個)=80 千円

@16 千円

@14 千円

商品評価損	棚卸減耗費
b 商品	

170 個 175 個

商品評価損

(@14 千円-@16 千円)×170 個=340 千円

棚卸減耗費

@16 千円×(175 個-170 個)=80 千円

帳簿棚卸商品

a 商品 8 千円×760 個=6,080 千円  
 b 商品 16 千円×175 個=2,800 千円 } 8,880 千円  
 商品評価損…a 商品なし b 商品 340 千円  
 棚卸減耗費…80 千円+80 千円=160 千円

(借) 仕 入	8,640	(貸) 繰 越 商 品	8,640
繰 越 商 品	8,880	仕 入	8,880
商 品 評 価 損	340	繰 越 商 品	340
棚 卸 減 耗 費	160	繰 越 商 品	160

4. 貸付期間が1年を超えているので長期貸付金

当期分の利息は  $2,500 \text{ 千円} \times 2.4\% \times (9 \text{ ヶ月} / 12 \text{ ヶ月}) = 45 \text{ 千円}$

利息は期限に元金とともに受け取る約束なので未収収益とする。

5. 減価償却

建物（定額法）残存価格ゼロ

$(28,000 \text{ 千円} - 0 \text{ 円}) / 50 \text{ 年} = 560 \text{ 千円}$

備品（定率法）償却率 0.393

$(7,600 \text{ 千円} - 4,250 \text{ 千円}) \times 0.393 = 1,317 \text{ 千円}$

(借) 減 価 償 却 費	1,877	(貸) 建物減価償却累計額	560
		備品減価償却累計額	1,317

6. のれんの償却

8年で償却するので、のれん償却額は  $1,200 \text{ 千円} / 8 \text{ 年} = 150 \text{ 千円}$

石狩会社の事業の一部買収は当期に行われ、4か月経過しているので、当期ののれん償却は

$150 \text{ 千円} \times (4 \text{ ヶ月} / 12 \text{ ヶ月}) = 50 \text{ 千円}$

7. 商標権の償却

有効年数 10年で当期までに4年償却が終わっている。残年数6年で600千円なので

当期の商標権償却額は100千円

8. 支払利息

1年の利息は  $10,000 \text{ 千円} \times 3.6\% = 360 \text{ 千円}$

利払日は毎年5月末と11月末である。残高試算表の支払利息は期首の2月1日から直近の利払日11月末までの10ヶ月の金額が記載されている。直近の利払日からの経過月数2ヶ月分の未払利息を計上する。

(借) 支 払 利 息	60	(貸) 未 払 利 息	60
-------------	----	-------------	----

9. 退職給付の積立

(借) 退 職 給 付 費 用	1,120	(貸) 退 職 給 付 引 当 金	1,120
-----------------	-------	-------------------	-------

[資料2]2(2)より、当期に退職した従業員への退職一時金が760千円なので決算整理後の退職給付引当金は  $12,270 \text{ 千円} + 1,120 \text{ 千円} - 760 \text{ 千円} = 12,630 \text{ 千円}$

10. 費用の繰延べ

保険料月額62千円×3ヶ月=186千円を繰り延べる。

(借) 前 払 費 用	186	(貸) 保 険 料	186
-------------	-----	-----------	-----

11. 法人税の計上

仮払法人税等が2,200千円あるので

(借) 法 人 税 等	4,380	(貸) 未 払 法 人 税 等	2,180
		仮 払 法 人 税 等	2,200